

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 13 章 24~30 節>

①一つ前の「種を蒔く人」との関連から考えると。

一度聞いたら忘れられない「種まき」のたとえ話です。18 節以下のイエス様の説明を読むと、御言葉に対する私たちの心構えが教えられているのが分かります。しかし、そんなに簡単に「分かった」と思える話でしょうか？ 小見出しには『種を蒔く人』のたとえとありますが、「種を蒔く人」より、「蒔かれた種」あるいは「どんなところに蒔かれたか」が主題なのではないでしょうか？ 小見出しがずれているのでしょうか？ また、弟子たちが、「なぜ、あの人たちにはたとえを用いてお話しになるのですか」(10)とイエス様に問うた話が記されていますが、これは何でしょうか？

②「種を蒔く人」という小見出しは深い！

18 節以下から、「御言葉に対する私たちの心構え」を聞き取るとは悪くありません。しかし、それだけしか語られていない箇所ではないのです。御言葉を悟らない人がどんなに多くても、御言葉を聞いて受け入れてもすぐに飽きて離れて行く人がどんなに多くても、試練や誘惑に遭うと御言葉に聞くことを止めてしまう人がどんなに多くても、御言葉を聞いて悟る人が 100 倍の実を結ぶということが、このたとえ話のもう一つの大切なこと、いや、私たちの心構えを考える前に考えておく必要のある大切なことなのです！ 「天の国」(11)「御国」(18) (神様の福音の支配(国と訳されている 元のギリシア語の意)は、私たちの心構えによって左右されるようなものではなく、神様御自身から出ているもっと確かなものなのです！ 「種を蒔く人」にこだわる小見出しはおかしくはなく、むしろ深いのです！

③悟らない人、離れる人、聞かない人を待ち続けておられる神様！

イエス様は、一見、見ても見ず、聞いても聞かない人たちのことを厳しく裁かれているように思うかもしれません。しかしそれは違います。イエス様は、「理解できないからだ」(13)とされています。神様は、「一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられる」神様です(ペトロ二 3:9)。先に救われたことを喜びつつ、神様の福音の伝道に仕えて行こうではありませんか！